



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2022年2月6日

No. 93

わたしがあなたを、だれのところへ
違わそうとも、行って
わたしが命じることすべて語れ。
エレミヤ書 1章7節c



礼拝献花より

御言葉に生きる

実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。
ローマの信徒への手紙 10章17節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『愛、あれば』

牧師 佐藤和宏

ルカ4章21〜30節

第二の朗読でお読みいただいた、コリントの信徒への手紙一 13章1節以下では「愛」について語られています。次のように始まっています。「聖書略」今日はこの3節までの言葉に聞いてまいりたいと思います。たとえどれほど素晴らしいことをしたとしても、そこに愛がなければ、無に等しいと言われています。愛がなければ、何事においても意味をなさないということです。それほど愛は、あらゆるものの意味合いに、大きな影響を与えるのです。愛はすべてものに、命を与えるのです。

この箇所を何度も読み返しているうちに、これは言い換えるなら「愛があれば」、すべてに意味が与えられるということではないかと思いついたものでした。「どれほど素晴らしいことをしても、愛がなければ」、これが言い換えるなら、「どれほど無駄に、無意味に思われることも、愛があれば」意味あるものとされるということなのです。もちろんここで言われる愛とは、私たち人間の内から出る愛ではありません。私たちの趣向によって変化するような愛のことではありません。ここで言われている、すべてに意味を与え、命を与える愛とは、神の愛にほかなりません。神の愛は、天地創造の初めに、造られたすべてのものと共に、私たち人間を「極めて良い」とした御心であり、人が罪に陥った後も、愛し続け、御子イエスを私たちの間にお遣わしになり、罪の赦しを実現するために、十字架の死を遂げさせた御心でした。それは人々の目には無駄であり、無意味な敗北にみえました。しかし、この神の愛はすべてに命を与え、あらゆることに意味を与えたのです。

最後にエレミヤ書1章4節以下に目を向けてみましょう。主なる神はエレミヤを預言者として立てるにあたって、次のように言われています。「聖書略」エレミヤが神を知る前から、神は彼を知っていたと言われています。知っていたばかりでなく、彼を神ご自身のものとして捕らえていたことが告げられています。

エレミヤは答えて言っています。「ああ、わが主なる神よ。わたしは語る言葉を知りません。わたしは若者に過ぎませんから。」ところが神は7節以下で「若者にすぎないと言ってはならない。わたしがあなたを、だれのところへ遣わそうとも、行ってわたしが命じることをすべて語れ。彼らを恐れるな。わたしがあなたと共にいて、必ず救い出す」と言われたのです。

エレミヤに代表されるように、人は自らのうちに条件が整っているかどうかで、そのふさわしさというものを判断します。あのモーセも遣わされるに当たって、自分に条件が満たされていないと何度も断り、ついには神に叱られてしまします。エレミヤもそうですが、私たちも何よりもまず、自分の内側に目を向け判断してしまふのです。そうして「未熟だから」無理だ、人前で語ることは苦手だから、時間がないからなど理由をつけてしまふのです。しかし今日、神は「若者に過ぎないと言ってはならない」、自分の内に理由を見いだそうとしてはならない。「私があなたを遣わし、あなたと共にいて、必ず救い出す」と、すべての理由が人間にはではなく、この神ご自身にあることを明らかにしているのです。

「この聖書の言葉は、今日あなたがたが耳にしたとき、実現した」と、主イエスが教えられたことも、「愛がなければ」言い換えて「愛があれば」と、告げられていることも、共通していることは、私たち人間に一切条件が求められていないということです。すべてにおいて、神から出てくるものに、すべてを生かし、すべてに意味を与える力があるということなのです。御言葉に力があるのです。神の御言葉に愛があるということなのです。これが神の御心なのです。

私たちはこの一年も「御言葉に生きる」という主題を掲げて歩みを始めます。神の御言葉に耳を傾け、御言葉を通して神が、私たちをその愛で満たし、成果の見えない宣教も、取るに足りないようみえる奉仕も、祈りも私たちのなすことすべてに、神は意味を与え、命で満たしてください。御言葉の力に固く信頼し、神の愛によってすべてをなす群れとして、祈りつつ、共に歩んでまいりましょう。(顕現後第4主日)

●木〇子さんより

9月4日の夕方、突然の動悸と息苦しさに、横浜総合病院の救急外来にかけこみました。その時は脈を抑える点滴でおさまったので、3時間ほどで帰宅しました。

翌々日の外来で、主治医より「心房細動の再発であり、薬では抑えられなくなっているのでは」と、手術を勧められました。数日前の苦しさを思い、即座に承諾しました。

予定は3泊4日と聞き、以前経験があったので、手術を受ければすぐに元に戻る期待で入院しました。

術前の検査で、「心不全が進んでいるので、手術ができないこともある」と言われましたが、予定通り手術が行われました。しかしそのあと何日か発作を起し、別の不整脈が出ていて突然死の恐れがあるので、主治医に除細動器を入れることを勧められました。

結局、3泊4日が10日間の入院となりました。

そして再入院して、除細動機能付きペースメーカーを植えました。

このペースメーカーによって、発作が抑えられるとともに、小さな機械をベッド横に置くことで、携帯電話の回線を通して病院につながっているの、二重の安心感が得られました。

今回の病気で、私は周りの人たちに支えられ、沢山助けられました。本当に感謝です。



教会

の皆様にも、お祈りと手紙や寄せ書きのカードをいただき、とても嬉しく、早く

礼拝に参加したいとリハビリを続けました。礼拝に参加できることは、今の私にとって大切なことです。

100パーセントとはいきませんが、徐々に元の生活リズムに戻ってきています。好きな本を読んだり、手仕事を始める気力も出て来ました。今は穏やかな時を過ごしています。

教会奉仕の出会いと経過報告

田〇〇一郎

[1] 教会奉仕の出会い

教会にお世話になり暫くして教会員の多くの方のお働き(奉仕)に、私も何かできないものかと自問自答してみました。教徒としての知識や理解度は浅く、身体も(右肩腱板断裂)という弱点を有し、どうしたものと悩んでいた時に、ふと頭によぎったのが母の話でした。母の日課であった朝の清掃奉仕は、藤が丘に転居した翌日にも始まり、通勤・通学の方々の挨拶も日課となり、発展して行く街の明るさが食卓の楽しい話題であったとのことでした。

いま求めている私の出来る教会奉仕に、母が行っていた清掃奉仕が社会奉仕でもあったことに照らし、奉仕区域を教会前歩道に広げても教会奉仕につながるのではないかと思うようになりました。第一本で出来、環境管理、体力の維持向上及び生活習慣の改善にもつながる『清掃』活動。「今は、これだ」と感じられました。

そして4年前の秋口の某日、教会

からの帰り際に教会正面前の銀杏の下で、佐藤牧師先生に「教会前の歩道の清掃を私にさせて下さい」と願い出て、日課の奉仕活動が始まりました。対象範囲は、一人でも出来るうな、教会前の銀杏を中心に西方・北方各20メートルずつの全長約40メートル間(4街路樹間)が適当かと決めました。

[2] 経過報告

1年目の当初、大きく育った銀杏の落ち葉は、私の箒の動きをあざ笑うかのように、北風・西風に舞い踊る毎日で、その都度見かねた先生のご支援を頂いていました。(感謝)

2年目に入り、保育園帰りの○実ちゃんの遠くからでもよく透る大きな呼び声『田〇さあ〜ん』が恥ずかしくも嬉しい励みとなり、それと共に掃除の流れや奉仕の喜びを身近に感じとれた2年目でした。

3年目にして、天気予報に基づく手戻りの少ない掃除進行方向、ゴミ袋への回収適箇所などを自分なりに会得。同一年、銀杏並木の大規模一斉剪定に伴う清掃負担軽減(落葉の減少)でのありがたさと、お風呂上

がりのような町並みの清潔感を全身で感じとることの出来た変化の3年目でした。

4年目。大規模剪定後での変わった事象として、今まで落葉の完了月日が一番遅かった教会前の銀杏が一斉剪定後なぜか落葉完了の一番乗りとなりました。…一方、お声をかけて下さる方や、一目をおいてくれる『わんちゃん』も増え、ありがたさを身を感じる奉仕4年目でした。～感謝・感謝の足かけ4年の奉仕活動報告でした。～

主日礼拝ライブ配信の回想録

～心地よさを目指して～ 4

田〇〇夫

開始当初から視聴くださったっている遠方の教会員の方々からは、いくつかの貴重なご意見が寄せられ改善が求められていました。その内容は「音が小さくて礼拝式文の音が聞こえない。」「先生の説教が聞き取りにくい。」という、配信上最も大切な音声に関するものでした。ご意見を切っ掛けに「何とかしなくては」と

今月の受洗記念日の皆さん

8日 名〇〇安兄

28日 安〇〇子姉

おめでとうございます。



「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」ローマの信徒への手紙 10章 17節
福音堂教会ウェブサイト <https://www.jek-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ配信をしています。(毎日8時15分～10時)

の使命感にも近い面持ちで解決すべくネット検索を始め、また地域の本屋さんでの立ち読みを通じて、いい手立てはないだろうかと調べ始めました。しかし、調べれば調べるほどライブ配信における音声問題が専門的分野へと入り込んでしまい、且つとても厄介な課題をクリアしなければならぬことを知ることとなり、結局どうしたらいいのだろうかと混乱してしまいました。そこで、気持ちのリセットを兼ねて音楽事務所の

■牧師室より

1月29日(土)に、教会総会が開催され、諸報告、決算予算、諸計画についてすべて承認されました。役員改選結果が報告され、○田〇一郎兄、田〇〇夫兄、○田〇郎兄、○野〇之兄、江〇〇子姉、○藤〇理姉、松〇美〇子姉(得票順)が選出されました。就任式は2月7日礼拝にて、執り行われます。2022年度の主題及び主題聖句は、第一面に記載されている通りです。どうぞ教会のために、お祈りください。

会員消息としては、中〇(〇谷)

知人に「どのような対策を打ったらいいかな？」とアドバイスをお願いすると、長い時間を掛けてかなり具体的な対処の方法を教えてください「言われたとおりを実施すれば、なんとかなるだろう」と少し安堵感を覚えたのですが、ただ電話を切るときに「思っているほど、そう簡単ではないかも」と彼がいい放った一言が妙に引っかかってしまい、これから先の改善対策に何か漠然とした不安感を持つてしまいました。(続く)

○葉姉が、下関教会へ転出されました。○藤〇美姉が名古屋市中に転居されました。それぞれ新しい生活が祝福されますように。

まだまだコロナウイルスの影響を受け、礼拝は2グループに分かれて実施しています。皆で集まったの礼拝を望みつつ、歩んでまいりますが、困難の時を過ごしています。それでも主の御手のうちにある恵みに感謝したいものです。

月報では近況をお知らせいたたくコーナーを設け、好評をいただいています。どうぞ「あなた」の近況をお知らせください。(佐藤)